

広 報  
は ん の 樹



社会福祉法人榛桐会  
さわらび医療福祉センター



## ～理事長挨拶～

### 「はんな・さわらび学園」から「はんな・さわらび療育園」へ そして「さわらび医療福祉センター」への道

昭和40年(1965)重症心身障害児施設の設置運営を目的として財団法人榛桐会が設立されました。翌年昭和43年に職員5名をもって開園の準備がなされ、6月1日に「はんな・さわらび学園」の開設に至りました。当時の当該場所は戦後の入植された方々の起伏のある牧草地であり、建設への苦労はさることながら、生活用水の確保や電線の敷設、下水道の整備等など先人の苦労があったに相違ありません。



理事長 鈴木 憲一

発足時の在園者は49名、職員は25名の運営でありました。昨今のように行政の福祉施策もまだまだ未成熟の時期であったはずであります。職員は入園者の抱える障害に対する療育・医療など試行錯誤の中で進めていかねばならない状況であったことと仄聞しています。

開園後間もなく、昭和44年7月には、時の皇太子・美智子妃殿下の行啓の栄を受け、職員にとりこの事は得難い体験であり、緒につてほどない職員の方々は感激され、職場の雰囲気も明るさを増し、なおかつこの園に集う障害を持たれた方々のためにとする気持ちと意欲への萌芽になったに違いありません。

昭和50年(1975)「はんな・さわらび学園」の法人創立満10周年記念での浴槽・諸設備・療育棟改築記念に合わせ「はんな・さわらび学園の歌」〔鈴木比呂志作詞・服部良一作曲〕が服部良一先生の出席のもとに披露されました。後の理事長となられた樋口昌之さんは、園に入る際に必ず「さわらび学園」の歌を口ずさみながら入ったということです。



この度の「はんな・さわらび療育園」から「さわらび医療福祉センター」への移転の経緯の概略ですが、平成25年(2013)療育園移転・新病棟建設基本計画委員会にその端を発します。事由のいくつかを列挙しますと、◇冬季の雪害で給食や物資調達に苦勞したこと◇持続的、継続的な職員の確保の問題◇よりよい医療環境の整備◇入所者の家族の皆様への利便、などなどが事由に挙げることが出来ます。翌年には複数の候補地を見学し、高崎市大八木町の土地購入と決定しました。

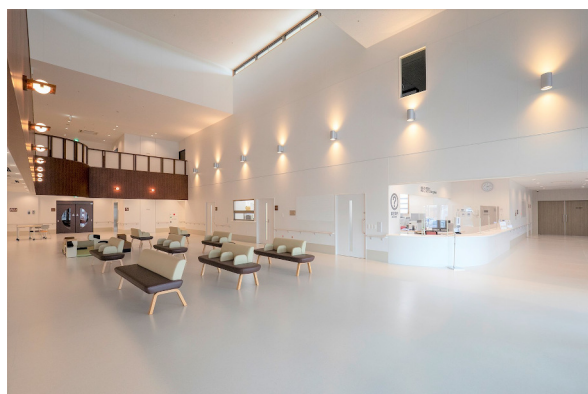
平成30年(2018)6月、療育園の移転に先立ち、当該土地に「浜川こどもとおとなサポートセンター」が開所されました。また、同年「はんな・さわらび療育園」移転基本計画策定会議がもたれ、移転計画は勢いをつけ粛々と進められ、令和4年(2022)6月1日「さわらび医療福祉センター」の開所となったわけです。

今思うことに、もしも移転計画に遅延があったとしたら、計画はCOVID19禍の直撃を受け、建築材料や補助金計画などに諸問題が浮上したことを考えた時、この移転計画は実に時宜を得た計画であったと思っています。

実際の移転に際しては、職員の皆さんの綿密な移転へのシミュレーションが繰り返し行われました。まさに民族の大移動です。職員の方々の気持ちの一致と労苦に心胆より感謝しています。

また、施設移転後の施設運営に携わる医療の担い手である医局の先生方をはじめ、その他多くの方々のお力のお陰で名称新たに「さわらび医療福祉センター」としてのこれからに向かい船出したわけでございます。

終わりに本報をお借りして、新施設の出航にお支えいただいた行政関係者の皆様をはじめご父兄の皆様、そして支援いただく多くの皆様に感謝の意をお伝えいたします。





## ～センター長挨拶～

この度、私ども「はんな・さわらび療育園」は榛名山から高崎市街地の浜川公園隣接地に移転し、「さわらび医療福祉センター」と名称変更をして再出発いたしました。

当センターの歴史をふりかえりますと、始まりは創設者である鈴木セイ先生が北欧の福祉を学びに行った時に重症心身障害児に出会う機会があり、日本ではこのような子供たちはどのような暮らしをしているのだろうかということから始まりました。当時、重症心身障害児は福祉の

谷間という言葉が使われ、どの制度の対象にもならずに関係制度の狭間に放置されている状況であったことは申し上げる必要はないかと思いますが、セイ先生は、その方々をそのまま放置し続けて良いわけがないと考え、創設を決意しました。そのような中、昭和40年（1965年）重症心身障害児施設の創設を目的として財団法人榛桐会を創立し、昭和43年（1968年）に「愛と奉仕の精神」を理念として、群馬県で初の重症心身障害児施設である「はんな・さわらび学園」を創立しました。しかし、当時の社会はまだ障害福祉への理解が足りないことなどから土地の確保が困難で榛名山の山間地に施設を造ることになったとのことです。その後、平成3年（1991年）に「はんな・さわらび療育園」と名称変更し運営してまいりましたが、令和4年6月に高崎市の市街地に移転いたしました。



センター長 金子 広司





今回の移転に関しましては、在宅支援を必要とする方々が増える中で、市街地から遠く離れた山間地ではご要望にお応えできないこと、減少するかもしれない入所希望者もこの山間部では選択していただけないのではないかと、また、より良い療育を提供するためには良いスタッフを集めなければならず、この地では医師をはじめとする様々な業種のスタッフ獲得に難渋すること、自然災害（積雪、大雨：土砂崩れ、地震：停電など）に弱いことなどがありました。しかしながらこの自然豊かな環境も良いところがあり、季節の良い時には外に出てお散歩することができましたので、市街地に移りましてもお散歩ができる環境はないかとさがしていたところ、浜川公園の隣接地を見つけることができました。今まで高崎駅から車で50分かかりましたが、移転地は15分ほどになりますので多くのご家族にとって面会がしやすくなると思います。

さらに今回の入所部門の移転では103床から120床に増床し、このうち短期入所のベッドを4床から15床に増床して短期入所機能を強化しました。また、新規事業としては、母児入所事業、病児保育事業を開始しました。

このように地域支援事業の拡充を行い、地域福祉の中核施設になるよう努力を続けたいと考えています。また、障害医療の専門施設としての役割を担っていけるように医療水準も向上させたいと考えています。また、新しい施設では厚労省の方針でも示されているようにユニット型にしております。1ユニット15名（子供のユニットは7名+8名の2ユニットに分かれています）の8ユニット（子供を2ユニットに分けているので正確には10ユニットになります）としました。各ユニットの療育活動に特徴を持たせ、利用者様それぞれの適応行動レベルに合った療育活動を確立していきたいと考えております。そして個室を多くしたのも特徴かと思えます。これは感染予防やプライバシーの保護とともに、面会に来たご家族が、親子でゆっくり過ごせる空間をできるだけ作りたいということが目的です。特に短期入所のユニットはすべて個室にしましたが、短期入所される方が感染症に罹患していたとしてもお断りすることなく予定通り利用できるよくなると思ったからです。

一方、入所者の方々の安全をいかに確保するかが課題になりますが、夜勤者数を6人から8人に増やすとともに、生命維持や安全確保のためにデジタル機器（離床や起き上がりを見守るセンサーの導入や見守りカメラなど）の設置をいたしました。

このよう様々な機器を活用しながら利用者様の安全、健康を守るとともに豊かな生活を過ごしていただけるような取り組みを続けたいと思いますので、今後ともご指導、ご支援いただければ幸いです。

# ～移転までの流れ～

2013年

6月 はんな・さわらび療育園移転・新病院建設基本計画検討委員会設置

2014年

1月 移転候補地2か所を見学 (大八木町・寺尾町)

11月 大八木町の土地購入

2015年

3月 大八木町既存建物解体工事に関する入札の実施

2016年

5月 大八木町既存建物解体工事 着工

9月 「新施設基本計画・事業計画」作成に関するコンサルタントとして  
株式会社川原経営総合センター様 契約

2017年

5月 浜川こどもとおとなサポートセンターの建築設計・監理業者決定 池田設計様

11月 浜川こどもとおとなサポートセンター入札 冬木工業様入札

2018年

6月 浜川こどもとおとなサポートセンター 開所

7月 はんな・さわらび療育園移転基本計画策定会議 開始

2020年

9月 「令和2年度高崎市社会福祉施設等施設整備費補助金」 交付決定  
さわらび医療福祉センターの建築設計・監理業者決定 池田設計様

10月 「令和2年度群馬県社会福祉施設等施設整備費補助金」 交付決定

11月 さわらび医療福祉センター 入札参加業者選定

2021年

1月 さわらび医療福祉センター 入札 佐田・冬木特定建設工事共同企業体

2月 さわらび医療福祉センター 売買契約  
起工式

4月 さわらび医療福祉センター 移転準備室 発足

さわらび医療福祉センター 着工

6月 引っ越しに関するワーキンググループ 発足

7月 さわらび医療福祉センター移転計画書及び移転スケジュール 発表

9月 さわらび医療福祉センター 医療機器及び什器・備品 入札

11月 さわらび医療福祉センター 上棟

2022年

1月 利用者様移送計画に関するワーキンググループ 発足

3月 さわらび通所支援事業所 廃止  
さわらび医療福祉センター 病院開設許可申請 受理

4月 さわらび医療福祉センター 引渡し

5月 さわらび医療福祉センター 竣工式・内覧会

6月 さわらび医療福祉センター 利用者様移送  
開所



# ～さわらび医療福祉センター竣工式・記念式典～

強まる日差しに夏への移ろいを感じる季節を迎え、2022年5月20日(金)10時30分より「さわらび医療福祉センター新築工事竣工式」及び「記念式典」が執り行われました。当日は来賓としてお招きした関係行政機関の代表者と設計・施工関係者のほか、当法人の理事長・センター長を始め、センターの職員などが参列しました。式では来賓の方々や理事長・センター長・副センター長がセンターの安全と発展を祈念して玉串を奉奠しました。



竣工式が終了した後に会場を移し、記念式典を執り行いました。記念式典では、理事長の挨拶より始まり、来賓の方々からの御挨拶や日本重症心障害福祉協会の児玉和夫理事長よりビデオメッセージを頂いたり、多くの皆様からお祝いのお言葉を頂きました。設計・施工関係者へ理事長より感謝状をお渡しした後に来賓の方々とテープカットや集合写真撮影を行い、竣工式並びに記念式典が幕を閉じました。



## ～新規事業紹介～

### ～親子入所 こっこ～

群馬県内に在住する身体・知的に重度の障害をお持ちの幼少期のお子様、医療的ケア必要児とその保護者を対象に、在宅移行に必要な医療的ケアや遊び方、リハビリテーションを親子で体験していただきます。

在宅生活に向かわれる前に親子共に入所して頂きお子様の状態やまた在宅生活に関する不安や疑問を専門スタッフとともに共有し、今後の在宅医療・介護に関する知識や技術の習得を目標としています。



### ～病児病後児保育 ひよこ～

高崎市在住の生後1歳～小学3年生を対象に病児または病気回復期であり、集団保育の困難なお子様を一時的にお預かりする事業です。病気のお子様を抱え、困られている保護者の方が安心して仕事ができるよう、医師の指導の下に看護師・保育士がお世話や看病をします。



## ～医療管理棟～

### ～外来診察～

一人ひとりの患者様の状況に合わせて対応させていただいています。通常の診察室3室と感染症対策用として前室がある診察室が1室あります。完全予約制となっております。(写真右)



### ～リハビリ棟～

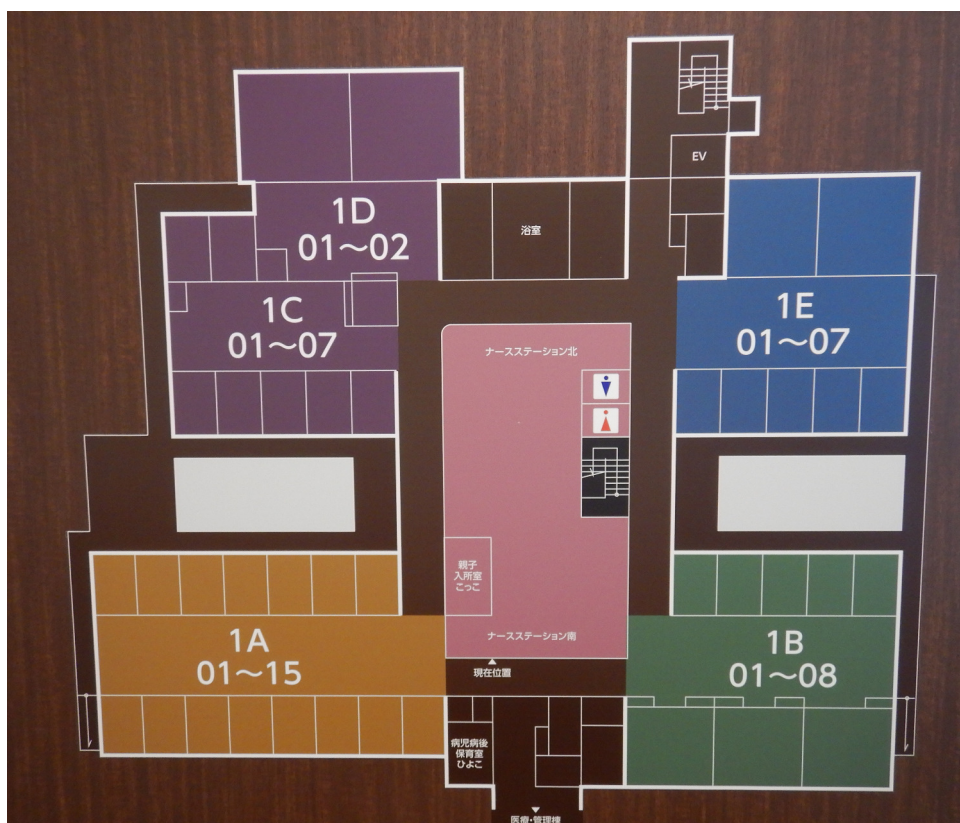
リハビリ担当医の指示のもとに評価し、策定したリハビリテーション実施計画書に基づいて、入所者様・外来利用者様のリハビリテーションを行なっています。リハビリ棟にはST室2部屋、OT室1部屋、ADL室1部屋、機能訓練室2部屋あります。(写真左は機能訓練室)

### ～福祉避難所～

災害時の障害を持たれた近隣の方々の避難所になっており、医療ガスも完備されています。(写真はパーティションを閉めた状態です。)  
(写真右)



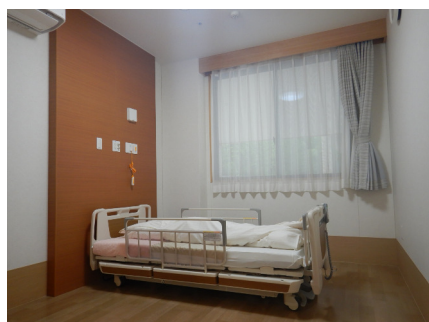
## ～療育病棟 1階～



さわらび医療福祉センターの療育病棟1階は、AからEユニットの5ユニットで構成され階層化の視点でユニット形成しています。利用者様の人数は、Aユニット15名、Bユニット16名、Cユニット7名、Dユニット8名、Eユニット14名総数60名で構成されています。

1階Aユニットは、短期入所ユニットです。ご家族からの情報を元に利用者様個々の日常生活を大切にしています。自力移動ができる利用者様や医療的関わりが必要な利用者様、コミュニケーションを通して意思や感情を表出していただけの利用者様など様々な方に利用していただいています。ご利用状況によりユニット内の雰囲気が変化していく中でも担当職員は利用者様それぞれに安全な関わりの提供となるよう取り組んでいます。

短期入所で使用している三種類のベッドです。





1階Bユニットは、自力移動ができる利用者様が多いのが特徴です。利用者様は周囲の人の声や姿、物の音に関心を示し自身の思いを発声や行動で表出されています。担当職員は、利用者様それぞれの表出内容に寄り添いより良い関係性の構築へ結びつけられるよう努力しています。1階内では1番動きが活発な利用者様が多いユニットのため、安全に過ごしていただけるよう環境整備に日々心掛けています。

1階CユニットとDユニットは、小児ユニットです。現在2歳から17歳の利用者様が過ごされており、常勤保育士がそれぞれのユニットに配置されています。利用者様は個々の自己表出方法により、抱っこや遊び等の関りを求めてきます。遊びを通して物への関心や好奇心の拡大を図りつつ、人への愛着を育んでいます。担当職員は、その過程で知的発達や運動発達へと結びつくような関わりを意識しています。また、医療的な関りを必要とする利用者様も多いため、全身状態を観察し異常の早期発見に取り組んでいます。

1階Eユニットは、自力移動ができる利用者様や、意思を自身から発信できる利用者様、視線の動きの変化によって訴えることができる利用者様といった様々な利用者様が過ごされています。利用者様一人ひとりがお持ちの生活機能を活用して、日常を過ごしていただいています。担当職員は、利用者様の細やかな変化を見逃さず、感じ取れるような環境整備や、動くことができる利用者様と寝たきりの利用者様同士の安全な距離感を常に心がけ生活していただいています。



1 Aユニット

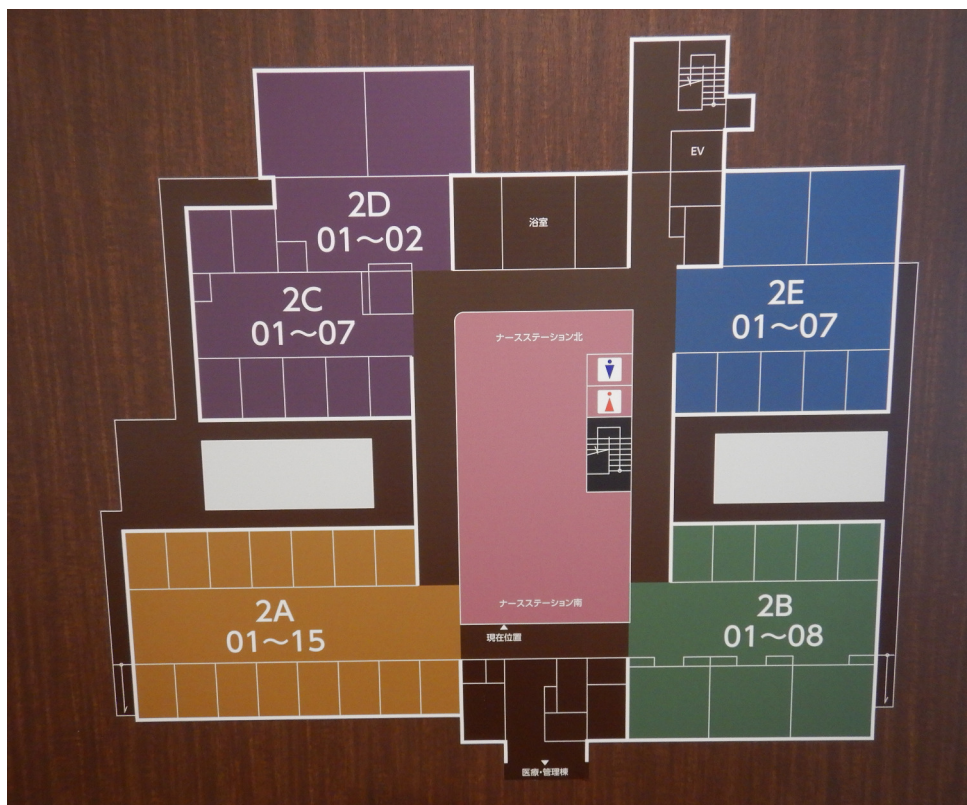


1 Cユニット



1 Dユニット  
準個室型4床室

## ～療育病棟 2階～



さわらび医療福祉センター療育病棟2階は、5ユニットの構成となっています。ユニットは利用者様の階層化によって分けられておりAユニット15名、Bユニット17名、Cユニット7名、Dユニット8名、Eユニット13名総数60名で構成されています。

2階Aユニットは全て個室となっているため静かな環境を好まれる方や医療的ケアが必要とされる方、言葉や身振り手振りで意思表示される方、車椅子を自分で操作し大好きな野球をテレビ鑑賞されている方など様々な過ごし方をされています。ユニット職員は利用者様一人ひとりに寄り添い、その人に合った環境やリビングの広いスペース内で自由に安全に過ごして頂けるよう努めています。

2階Bユニットは個室が5部屋と4人部屋が3部屋あります。自力歩行されている方、リビング内を自由に動かれている方、自分のお気に入りの場所を見つけて過ごされている方など動きが活発な方が多くいます。4人部屋の方々も個人の環境が確保され好きな音楽を聴いたりして過ごされています。自らの考えを職員へ伝え季節に合ったイベントを計画したり創作活動を行っている方もいます。ユニット職員は利用者様が自由に安全に過ごすことが出来るその人らしい生活環境を提供できるよう努めています。



2階Cユニットは全て個室となっていて、医療的ケアを多く必要とされる利用者様がいます。職員の動きを目で追ったり、お気に入りの映像や音楽に表情が柔らかくなったり意思表示の仕方は様々ですが、視線の動きや身体の動かし方などでその人らしさを感じ取ることが出来ます。ユニット職員は利用者様の日々の全身状態の変化を見逃すことなく、個人の思いに寄り添い安定した生活が送れるよう取り組んでいます。

2階Dユニットは4人部屋が2部屋となっており医療的ケアを必要とされる利用者様がいます。音の出る玩具に興味を示したり、映像を見たり聞いたりすることにより笑顔などの自己表現が多く表出され職員の動きにも敏感に反応されます。ユニット職員は利用者様の体調の変化を見逃すことなく個人の意思表示をくみ取り安定した生活が送れるよう取り組んでいます。

2階Eユニットは個室が5部屋と4人部屋が2部屋あります。自力歩行されている方、リビングやフロア内を自由に動き過ごされている方、職員や他の利用者様の動きを目で追い興味や関心を示してくれる方がいます。ベランダに出て外の景色や風を肌で感じ新しい環境の変化を楽しんでいる方など、個性豊かな方々が過ごされています。ユニット職員は利用者様が自由に歩行できる場所の確保など安全に過ごして頂けるよう努めています。



バルコニー



恵泉庭(中庭東)



中庭西

# ～給食棟～

## 新たな給食システムの導入

皆さんは「ニュークックチル」という給食システムを聞いたことはあるでしょうか。なんだか横文字で難しそうな名前ですが、当センターではこのシステムを移転に伴い導入して給食を提供しています。

現在の給食業界では、人材不足や衛生管理の強化等、様々な課題が山積しており、当センターが移転前に榛名の地で運用していた「クックサーブ」という、厨房で調理して盛り付けて提供する方式では、数十年後を見据えた際に給食提供が継続不可能ではないのか、という考えがありました。利用者様に安心安全で温かくて美味しいお食事を、数十年後も安定的に提供させていただくにはどうしたら良いかを模索していたところ、「ニュークックチル」というシステムなら実現可能ではないのかとなりました。この「ニュークックチル」というシステムは、セントラルキッチンで調理・加工を行い、施設ではできあがったものがチルド状態で運ばれ、チルド状態で盛り付けて、提供直前に温めて提供するというシステムです。このシステムを知った直後から、私や事務局長でセミナーに参加したり、センター長を含む移転会議のメンバーで何度も試食をしたりしました。「厨房で調理をしないとなんだか味気ない。」といった声も試食前にはありましたが、実際に食べてみると出来たてのものと変わらない美味しさに驚いたことを今でも覚えています。また、以前より問題視していた加水量も、セントラルキッチンで食材をすりつぶすようにして加工しているため、余分な水分を摂取することなく、利用者様にはお食事の美味しさはそのままに、お腹も無理なく美味しく召し上がっていただくことができるようになるということで、移転後の当センターの給食システムは「ニュークックチル」に変更となりました。

実際に稼働して早4ヶ月が過ぎましたが、大きな問題なく利用者様には喜んで召し上がっていただけています。また、今までは手をかけることができなかつた午後のおやつに関しても、手作りで提供することができ、毎週違ったおやつを楽しみにしていただけており、こちらとしても嬉しい限りです。

一日でも早く職員も「ニュークックチル」に慣れ、安全安心で美味しい食事から適切な栄養管理ができるよう、栄養（給食）係全員で頑張っていきたいと思っております。細かい点については説明しきれないところもありますがお読みいただきありがとうございます。

事務部総務課栄養係 管理栄養士



株式会社中島製作所,  
<https://www.meal-shuttle.jp/strength/product.html>



## ～交通アクセス～

### 《県道10号前橋安中富岡線からの順路》

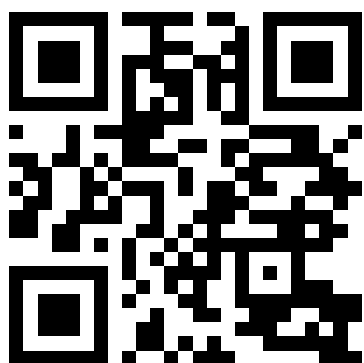
- ① 「井出」の信号を高崎方面（県道123号柏木沢大八木線）へ入る。  
（前橋方面からの場合は左折。安中方面からの場合は右折。）
- ② 最初の信号を直進。
- ③ 次の「大八木町西」の信号を直進。
- ④ 次の信号を直進。
- ⑤ 道なりに約160m進むと右側に「さわらび医療福祉センター」の正門があります。

### 《市道高崎環状線からの順路》

- ① 「下小鳥町西」の信号を箕郷方面（県道28号高崎東吾妻線）へ入る。  
（高崎市街地方面からの場合は右折。安中方面からの場合は左折。）
- ② 道なりに約130m進みY字路になっている交差点を右折。
- ③ 最初の信号を直進。
- ④ 次の信号を直進。
- ⑤ 道なりに約330m進むと左側に「さわらび医療福祉センター」の正門があります。

### 《バスをご利用の場合》

JR高崎駅 西口より 群馬バス 榛東村役場行きで約15分「ラジエ工業前」バス停下車（下車後、北（ゴルフパートナー 高崎スポーツセンタードライビングレンジ店様方面）に向かって下さい）、徒歩2分



こちらからHPにアクセスできます



所在地 群馬県高崎市大八木町168-1  
TEL 027-361-6111  
FAX 027-361-6112



社会福祉法人榛桐会

## さわらび医療福祉センター

〒370-0072  
群馬県高崎市大八木町168-1  
T e l : 027-361-6111  
F a x : 027-361-6112